

バス停留所上屋整備方式の変更によるコスト改善

工事名： 広告付きバス停留所上屋整備事業

概要： 民間事業者が広告パネル付きのバス停留所を設置し維持管理を行うもので、事業者自らがその広告料収入をもって運営することにより、交通局の費用負担を掛けずに停留所の整備促進を図ることができる。

効果：

- 従来は1基あたり140万円程度要していた交通局の費用負担が、同事業の展開により不要となった。
- 従来は年間1基あたり約3万円要していた維持管理費用についても、事業者が負担することで交通局の費用負担が不要となった。
- 京町屋の千本格子をイメージし、景観性に優れたデザインを用いたことで、京都のまちの景観との調和とバス待ち環境の向上に寄与している。

<整備状況写真>

【整備前】



(西大路九条 ~H27. 2)

【整備後】



(西大路九条 H27. 3~)

<整備実績>

年度	整備実績(予定)
H21	10基
H22	19基
H23	25基
H24	19基
H25	28基
H26	49基
H27	約50基
計	約200基

※平成27年度については整備予定数。

ステンレス・フレキ管による管更生（SDF工法）を採用したコスト改善

工事名： 配水管布設替工事（西京区）

概要： 水道管の更新時において，河川横断部等における工法として推進工法ではなく，新設管の管径を小さくできるなどの条件が適用できたため，パイプインパイプ工法を採用した。また，挿入する新設管は既設管の線形がほぼ直線でしか対応できない直管ではなく，曲線部があっても対応できるステンレス・フレキ管を採用した。

効果：

- 推進工法と比較した場合，工事費を約56%縮減^{*}できた。（※当該工事の現場条件で，河川横断部に係る施工が可能な工法での直接工事費の比較）
- ステンレス管を採用しており，長期耐食性，耐久性および耐震性に優れている。
- 発進および到達立坑について他工法と比べて形状を小さくできるため，工事に伴うCO₂排出量の抑制を図ることができた。

【SDF管の構造】



【SDF工法の施工イメージ】

